



Title	英国初期近代 parlour と家父長制 : Holinshed における Thomas Arden の parlour をめぐって
Author(s)	三浦, 誉史加
Citation	Osaka Literary Review. 2003, 42, p. 17-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/25196
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

英国初期近代 parlour と家父長制

— Holinshed における Thomas Arden の parlour をめぐって —

三 浦 誉史加

Kent 州 Faversham に居を構えていた一人のジェントルマンが 1551 年に殺害された。彼の名は Thomas Arden。殺害に関わったのは彼の妻 Alice (Alyce)、Alice の愛人 Thomas Morsby、Blackwill of Calyce 他 7 名であったと公文書 Faversham Wardmote Book に記載されている。Holinshed は *Chronicles of England, Scotland, and Ireland* (1577) でこの殺人を取り上げている。Lena Cowen Orlin は、公文書においては Alice Arden は、殺害の首謀者としては登場しないと指摘する。(20) Holinshed の年代記といった翻案版は、Alice を夫の殺人に積極的に関わる女性として描くことで、この殺人を家庭内の私的な事件に仕立て上げている。しかしながら、現存する公的記録は、Arden 殺害の動機はむしろ、彼の公の場での活動に起因することを指し示している。(Orlin 20) Wardmote Book によれば、Thomas Arden は「自分の parlour で惨殺された」(“was heynously murdered in his owne plo’”) (160)。¹ 本論では、夫の殺害という家父長制から逸脱する罪を犯した非難すべき女性としての Alice を構築するプロセスに、当時の住居形態における parlour がいかに関わっていたかということを考察することで、英国初期近代の住居と家父長制・ジェンダーとの関係を探って行きたい。

16 世紀後半の家に parlour は標準装備されていたのだろうか？ここで 1580 年代 Stratford-upon-Avon におけるジェントリー未満階級の住宅状況をまとめた表 1 をご参照頂きたい。当地財産目録より、各世帯主の階級・職業が記述され、Arden 殺害に最も近い時期のデータを表にしたものであ

る。Faversham と場所は異なるものの、一定の指標になると考える。“parlour” と呼ばれる部屋を持つ家には 5 部屋以上 (John Robins を除く) ある (こうした家には通常複数の寝室がある)。Parlour を一つも持たない家の部屋数は 4 部屋以下である (その場合寝室は一つである)。ヨーマンは二人とも parlour を持っている。一方、5 人の商人のうち、parlour を所有しているのは John Browne のみ、4 人の職人のうちでは 2 人である。ハズバンドマンも労働者も parlour を所有していない。この部屋を持っているのは全体として 30 % のみである。

一方、当地で財産目録にジェントルマンが現れるのは 17 世紀に入ってからである (1572 年に 1 名いるが、部屋名の記載が無い)。表 2 をご覧頂きたい。1625 年の財産目録に各部屋の品目が登録されている当地ジェントリー層は 3 人いる。このうち二人が parlour を持っている。Leonard Kempson の家には parlour と呼ばれる部屋が無いが、当時の家での通常の parlour の位置・複数ある寝室を考慮すると、“the chamber next the hall” が parlour の役目を果たしていたと考えられる。他方で、1624-25 年登録のジェントリー未満層 8 人のうち、部屋別に品目が記載された者は 5 人、そのうち parlour と呼ばれる部屋を持っていたのは 1 人 (ヨーマンの未亡人) である。これらの表より、parlour と呼ばれる部屋の存在の有無が家の所有者の豊かさを示唆することが分かる。

それでは、parlour はどのように使用されていたのだろうか。N. Cooper によれば、中世後期の上層階級では、parlour は居間もしくは食堂として日常使用されていた。非公式の客はここで接待されることがあった。同時に、この部屋にはベッドが置かれることがしばしばであった。しかしながら、16 世紀半ばまでには、もはや寝室としてではなく食堂もしくは客を接待する場として使用されるようになった。この部屋が特定の目的で使用され始めた事を示す ‘dining parlour’ という用語が生まれたのもこの頃である。Sir Thomas Pakyngton (1571) を例にあげると、そうした parlour の備品は、

長テーブル1脚、板張りスツール12脚、椅子1脚、テーブル1脚であった。(Cooper 290) Cooper は貴族層の家を主に分析しているのだが、それでは Cooper の紹介する parlour の使用状況は全ての規模のジェントリー層に当てはまるのだろうか。表2をご覧頂きたい。1625年には、3人のジェントルマン全ての parlour にベッドがある。parlour が寝室としての機能を依然として持っていたとしても、同時に接待や食堂として使用されていたかどうかを椅子やテーブルの数からある程度推測できる。表2の各 parlour に置かれていたテーブルや椅子のうち、(S)の表示があるものは hall に置かれたそれよりも数が少ないことを示している。3人のジェントルマンのうち、一人はテーブルを持っていない。残りの2人は所有しているが、いずれも hall よりも少ない人数分しかない。彼らの parlour は hall ほど十分には応接間・食堂の役割を果たしていなかったことが推測できる。これより、Cooper の分析は全ての規模のジェントルマンに適応されるものではないことが分かる。従って、上層未満階級の parlour の歴史をもう少し詳細に見ていく必要がある。

Stoneleigh の住居状況をまとめた N. W. Alcock によれば、16世紀前半依然として残っていた中世からの古い型の家には3つの部屋があり、全ての家が parlour を所有しているわけではなかった。例えば、1481年には、Stoneleigh Houses の4人の借家人のうち、parlour を所有している者は一人もいなかった。一方、その4人の全てが hall を持っていた。(Alcock 24) 1532年から1600年にかけて、この種の家の parlour は寝室として使用されていた。例えば、1575年に死去した Simon Tyler の財産目録には、この部屋の備品としてベッドにシーツ、金庫、模様を描いた布が記載されている。(36) こうした家には主にハズバンドマン、職人、労働者が住んでいた。

W. G. Hoskins が提唱した 'Great Rebuilding' と時期を同じくする16世紀後半になって、Stoneleigh でも家の大改築が始まる。改築に伴い規模

を広げた家には、hall、台所、食糧貯蔵室に加え 3－4 部屋及び parlour が 1－2 部屋あった。こうした parlour は常に寝室として用いられた。(55) 備品はベッド、長椅子、金庫、長持ちであった。17 世紀後半になると、ほとんどの parlour はテーブルと椅子を 1 脚ずつ所有するようになった。ベッドが消え、居間としてのみ使用されるようになった parlour の最初の例は 1604 年に死去した Anthony Spencer のものである。こうした使用法は、17 世紀前半の Stoneleigh では他に 2 例見られるのみである。1650 年から 80 年にかけては、Thomas Stacie of Finham、Samuel Wade of Whoburley、William Robinson、Christopher Leigh が 'living parlour' を持っている。いずれもジェントルマンであった。1694 年に死去したジェントルマン Richard Camill of Stareton の 'living parlour' には、テーブル 2 脚、革張りの椅子 6 脚、その他椅子 4 脚が収納されていた。この数は「台所」にあるテーブル 2 脚と 4 つの椅子をしのいでいる。この家は、hall が「台所」と呼ばれた初例となっている。この変化は、食事がもはや hall ではなく parlour でとられるようになったことを示している。(60)

一方 17 世紀前半のヨーマン、ハズバンドマン、職人といった中位階層の家は、一階には hall、食料品貯蔵室と他に一部屋（この部屋は 17 世紀初頭にはしばしば parlour と呼ばれていた）、二階には一部屋、という具合であった。(94) 17 世紀後半、この部屋は暖炉、仕切り、寝床暖め器、鏡などの贅沢品が備え付けられるようになった。18 世紀になっても parlour は依然として寝室として使用されていたが、特別な客を迎えたり家族全員が集まるのに十分な数の椅子やテーブルが入り始めた。しかしながら、居間専用として使うことが可能なスペースはこの部屋にはなかった。(99)

まとめてみると、Stoneleigh の家の parlour の特徴の変化は、階級ごとに時期をずらしつつ次のようなプロセスを辿っている。元々 hall は家族の活動の場として、parlour は家族の寝室として用いられていた。客は hall で迎えられていた。しかし、客を parlour で迎えるようになると、この部

屋は次第に贅沢品が置かれるようになった。居間・食堂・応接間といった、以前は hall が果たしていた役割を parlour が引き継ぎ始めると、ベッドは parlour から二階の部屋に移った。同時に、parlour に迎える際、客を日常作業が出す騒音や臭いで煩わせずに済むような移動経路が確保されるようになった。(203)

このようにして見ると、上流階級における parlour 使用法の変化が下階級に模倣されていった様子が分かる。階級が低いほど、経済的余裕が少ないほど、この模倣の進み具合は遅かった。Parlour の有無だけでなくその使用法が所有者のステータスを示したのである。家族の私的な場であった parlour は家族が外部に曝される場となる。部屋に飾る贅沢品の数が増えたように、家族を客という公に対し「陳列して見せる」場となったのである。「陳列する」にふさわしい家族とは、秩序の取れたそれ、すなわち家父長制が良く機能しているそれである。従って、家父長制が女性に転覆される不安を表わす場として parlour が表象されたのも不思議ではなかった。この不安は、ステータスのシンボルとなり得る parlour を占拠する女性への不快感という形で表わされた。その一例を、Thomas Arden の殺害を再現した Holinshed の年代記に見ることができるのである。まず、Faversham Wardmote Book における Arden 殺害直後の犯人達の行動の報告を見てみよう。

[H]e was most shamefully murdered as is foresaid / as he was playing at Tables frendly w^t thesaid morsbye [...] / And after that he was thus murdered he was Caryed out of thesaid plo^r / into y^e foresaid dark house / and when thesaid Black will had holpen to laye him there / he Returned forthw^t to thesaid Cyslye pounders house / and there receyved for his thus doying / the Sume of Eight poundes in money whiche was there afore

poynted for his reward And immediatly he deputed from Fau'sham
 so that he could not iustly be herd of syns that tyme / And he
 beying thus deputed wth his reward / thesaid Cisley ponder went
 to thesaid Arderns / and did help to beare the deade corps out
 into a medowe there comonly called the Amery croft on the
 backside of thesaid Arderns Garden / and a Boute Enlevyn of
 the Clocke thesaid Soday night / thesaid Arderne was founde
 where they hadd laid him [. . .]. (161)

Thomas Arden の死体が “dark house” に隠される場面に死体を草地に運ぶ場面が続いている。Holinshed はこの間に次の場面を挿入している。

Then she [Alice Arden] sent for two Londoners to supper, the one named Prune and the other Cole, that were grocers, which before the murder was committed, were bidden to supper. When they came, she said: I maruell where maister Arden is; we will not tarie for him, come ye and sit downe, for he will not be long. Then Mosbies sister was sent for, she came and sat downe, and so they were merie.

After supper, mistres Arden caused hir daughter to plaie on the virginals, they danced, and she with them, and so seemed to protract time as it were, till maister Arden should come, and she said, I maruell where he is so long; well, he will come anon I am sure, I prairie you in the meane while let vs plaie a game at the tables. But the Londoners said they must go to their hosts house, or else they should be shut out at doores, and so taking their leaue, departed. (155-56)²

妻 Alice は夕食後に “game at the tables” をしようと提案している。ここで Holinshed 版による Thomas Arden 殺害直前の場面を見てみよう。

Master Arden hauing beene at a neighbors house of his, named Dumpkin, & hauing cleared certeine reckonings betwixt them, came home: and finding Mosbie standing at the doore, asked him if it were supper time? I thinke not (quoth Mosbie) it is not yet readie. Then let vs go and plaie a game at the tables in the meane season, said maister Arden. And so they went streight into the parlor: and as they came by through the hall, his wife was walking there, and maister Arden said; How now mistresse Ales? But she made small answer to him. In the meane time, one cheined the wicket doore of the entrie. When they came into the parlor, Mosbie sat downe on the bench [...]. (154-55)

Thomas Arden の取ったルートから、Alice が提案した “game at the tables” もやはり parlour で行なわれるはずであったろうと推測できる。Thomas Arden は、Alice とは逆に、parlour でゲームをしてから、もし生きていれば食事をとったであろう。Holinshed は、夫が果たし得なかったプロセスを逆に辿り、夫が客を接待した parlour の支配権を握ろうとすることで家父長制の転覆を試みる危険な女性として Alice を描いているのだ。

もう一点注目したいのは、Holinshed が設定した、Alice とその客が食事を取った場所である。Thomas Arden の場合、食事の用意はまだ整っていないと言われたため、“they went streight into the parlor” と Holinshed は書いている。“streight” という言葉から、もしゲームの前に食事を取るとすれば、それは parlour 以外の部屋、すなわち hall であったろうと推測できる。Alice の場合はどうだろう？ Thomas Arden が Mosby とゲームを

した場面から、parlour は客を接待する場所であるとの印象を読者は受けている。このため、音楽・ダンスの場面と parlour との結びつきが連想される。食後に楽器の演奏やダンスで楽しんだ際、場所を移動したとの記述はない。この曖昧な記述によって、Alice たちの食事シーンは完全には parlour から切り離されないのである。上記に見たように、年代記が出版された 16 世紀後期には、parlour で食事を取る習慣はジェントリー未満の階層にはまだ行き渡っていなかったため、この行為はステータスを意味する。Parlour に付帯するステータスを示唆することで、その支配権を夫から奪取しようとする Alice を家父長制維持に不都合な非難すべき女性として描くことができる。このようにして、Wardmote Book では単なる殺害の場に過ぎない parlour が、家父長制転覆を試みる場として表象される様を見ることができる。

Aphra Behn 作 *The Revenge: Or, a Match in Newgate* (1680) にも、parlour が家父長制維持に纏わる不安を表わす場となっている例を見ることができる。第 3 幕では、“Gentlewoman” である Dashit 夫人が、parlour で Jervice と Glisten 夫人の噂話をしながら自分の夫を当てこする。

[H]ow does Mrs. Glisten? I knew her well, she was a very good patient Creature, efaith; she has born, and born, and bore again, good woman, as well as I, with a bad Husband [...]. (3.206-8)

そこに Trickwell が入室し、Dashit 氏と Glisten 氏が鮭を Dashit 夫人に贈ってきたこと、彼らが夕食に来る旨の伝言を夫人に伝える。そこで夫人は Sam に鮭を使った食事の用意をさせる。また、Dashit 氏の “Bow!” を Trickwell を通じて氏に送ってよこすように言付かった夫人は言われたとおりにする。しかし、Trickwell が退室した後帰宅し parlour にやってきた Dashit 氏は、自分は鮭など贈っていないと言い張り、その鮭を「まるで気が違ったように」(“like mad”) 食べ散らし始める。また Dashit 氏は、

Glisten 氏と夕食に訪れるなどと言付けた覚えはないと言い、自分の“Bowl”が家から消えたことに怒り狂い、退場する。Dashit 夫人は、Trickwell から聞いていた伝言と矛盾する言動を取る夫に混乱する。ここで再び Trickwell が登場し、Dashit 氏は夫人を驚かせるために何も知らない振りをしたと夫人に明かし、氏から夫人への新たな指示を伝える。

Dashit 氏は、parlour に纏わる家事に関して夫人を混乱させ、parlour を支配する能力が無い妻を作り上げ、氏自身が parlour を掌握しているのである。彼のこの行為は家父長制の維持に対する関心から来ていることを次の科白から伺うことができる。Glisten 氏と夕食に来るという伝言などしていないと言う Dashit 氏に対し、夫人が“Lord, How strange you make it!”と叫ぶと、氏は “[I]s the woman mad!” (3.255) と切り返す。そして、“Bowl”は家にはないと言う夫人に対し、氏は“thou Plague to man, thou Wife thou” (3.289) と毒づく。彼の科白は夫婦個人の対立を男性と女性の一般的なそれに摩り替え、女性を劣ったもの、逸脱する危険があるものと結び付け、男性が規制し支配すべきものとして描写している。

家族の私寝室であった parlour が応接間として機能し始めたとき、そこは家族が他者に覗かれる部屋となった。家族が parlour で外部の審判に曝されるとき、この部屋は家の所有者が家族を組織する原則としての家父長制が機能しているか否かへの内省を迫られる場所となる。その有無と使用法がステータスを示す parlour で主導権を握ることは、家長の地位を誇示する手段の一つとなり得、女性は parlour のコントロールへの脅威となる存在として描写された。ここに、ジェンダーが形成される場としての parlour が文化的に構築されるプロセスを見ることが出来るのである。

注

- 1 Wardmote Book の引用は全て M. L. Wine, ed., *The Tragedy of Master Arden of Faversham* (London: Methuen, 1973) 中の Appendix III による。
- 2 Holinshed の引用は全て Wine, *Tragedy* 中の Appendix II による。

参考文献

- Alcock, N. W. *People at Home: Living in a Warwickshire Village, 1500-1800*. Chichester: Phillimore, 1993.
- Behn, Aphra. *The Revenge: Or, a Match in Newgate*. Cambridge, 1996. Online. *Literature Online*. Internet. 20 March 2003.
- Braun, Hugh. *Old English Houses*. London: Faber and Faber, 1962.
- Cooper, N. *Houses of the Gentry 1480-1680*. New Haven: Yale UP, 1999.
- Holinshed, Raphael. *Chronicles of England, Scotland, and Ireland*. Vol. 2. Wine, *Tragedy* 148-59.
- Hoskins, W. G. *Provincial England: Essays in Social and Economic History*. London: Macmillan, 1963.
- Jones, Jeanne, ed. *Stratford-upon-Avon Inventories 1538-1699: I 1538-1625*. Dugdale Society, 2002.
- Orlin, Lena Cowen. *Private Matters and Public Culture in Post-Reformation England*. Ithaca: Cornell UP, 1994.
- Platt, C. *The Great Rebuildings of Tudor and Stuart England: Revolutions in Architectural Taste*. London: UCL, 1994.
- The Wardmote Book of Faversham*. Wine, *Tragedy* 160-63.
- Wine, M. L., ed. *The Tragedy of Master Arden of Faversham*. London: Methuen, 1973.
- Wrightson, Keith. *English Society, 1580-1680*. London: Hutchinson, 1982.

表 1

TEAR	OCCUPATION	NAME	HALL	PARLOUR	TABLE BOARD	CHAIR, BENCH, FORM	BED	Rooms
1580	general smith	Richard Balamy	○	×				4
1583	yeoman	John Sadler	○	○	1 table with a frame, 1 little square table (S)	1 chair, 3 joined forms	○	6
1583	wheelwright	John Ashwell	○	×				3
1584	butcher	Thomas Asteley	○	×				3
1586	woollen draper	John Browne	○	○	×	×	○	6
1586	yeoman	Christopher Smith	○	○	3 little table boards	1 chair, 1 form (S)	○	5
1587	fuller	Thomas Taylor	○	○	1 little board (S)	1 form (S)	○	5
1588	butcher	Thomas Perry	○	×				2
1588	tailor	John Tonge	○	×				3
1588	day labourer	William Taylor	×	×				1
1588	husbandman	Peter Smart	○	×				3
1588	wool driver	John Robins	○	○	×	×	○	4
1589	haberdasher	Robert Hynd	○	×				4

表 2

TEAR	OCCUPATION	NAME	HALL	PARLOUR	TABLE BOARD	CHAIR, BENCH, FORM	BED	Rooms
1625	gentleman	John Sadler	○	○	1 drawing table, 1 litte table (S)	2 joined chairs, 2 forms	○	6
1625	gentleman	Leonard Kempson	○	○ ?	×	×	○	7
1625	gentleman	John Gibbs	○	○	1 table board (S)	3 chairs, 1 stool, 1 form (S)	○	8